

CWAJ/VVI Newsletter

2018 年春号

目次

1. ごあいさつ
2. CWAJ/VVI 2018 年の活動について
3. ECG (英会話の集い) ～エジプト～
4. エッセイ 福地健太郎 おかげさまで今ここに ～北海道からの近況報告～
5. 編集後記

※各項目の最初に★印をつけてありますので、項目検索にご利用ください。

CWAJ = College Women's Association of Japan VVI = Volunteers for the Visually Impaired (視覚障がい者との交流の会) ECG = English Conversation Gathering (英会話の集い) SVI=Scholarship for the Visually Impaired (視覚障害学生奨学金) HOA = Hands-on Art (ハンズ・オン・アート) JVDCB = Japan Vocational Development Center for the Blind (日本盲人職能開発センター) FSC=Foreign Students Circle (外国人留学生との交流の会)

★1. ごあいさつ

皆様、お元気ですか。今年の東京は久しぶりに雪がたくさん降りました。2月中旬から始まったピョンチャン・オリンピックとパラリンピックでは世界中から集まったスポーツ選手たちの活躍に心が躍りました。また、2月25日の東京マラソンでは16年ぶりの日本記録更新、ロンドン卓球ワールドカップでの日本人選手の躍進にも目を見張りました。

春号は、今年のCWAJの活動についてのお知らせに始まり、昨年11月のECGエジプトの報告と、2012年度CWAJ-SVI給付生の福地健太郎（ふくちけんたろう）さんが書き下ろしてくださったエッセイを載せております。

それではお楽しみください！

★2. CWAJ/VVI 2018 年の活動について

2018 年の CWAJ 現代版画展は、10 月 31 日(水)から 11 月 4 日(日)の期間、昨年と同じヒルサイドフォーラム(代官山)にて開催されます。ハンズ・オン・アートも企画しておりますので、ぜひ参加して芸術の秋を堪能して下さい。詳細は次号でお知らせいたします。

JVDCB では、毎年 VVI メンバーがペアになり、就職のための実用英会話を火曜と木曜の 2 コースで月 4 回行っています。今年度の終了式は 3 月 16 日でした。

筑波大学附属視覚特別支援学校高等部での CWAJ ボランティアによる英検模擬面接は、例年 6 月と 11 月に実施されます。

ECG(English Conversation Gathering) は、今年の第一回目はアメリカ南部をテーマに 3 月 31 日に開催されました。今号では間に合わなかったのもので、次号でどのような様子だったかを報告いたします。

今年も CWAJ/VVI の活動を通してみなさまにおめにかかれますことを楽しみにしております。

★3. ECG (英会話の集い) ～エジプト～

2017 年 11 月 18 日(土)、渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>にて、視覚障害者 17 名、ガイド 6 名、CWAJ ボランティア 19 名、その他 1 名の合計 43 名が集い、エジプト出身の CWAJ メンバーのナディア・エルボライ・ヤマムラと上智大学大学院で学ぶガーダ・ザイドさんからエジプトについて学びました。

わたしたちの日常には、エジプトを実感できるようなものがあまりありません。そんなわたしたちのために、ナディアとガーダは、手作りした立体地図で地理を説明し、バスブーサというお菓子を焼き、スパイスの効いたお茶を何種類もポットに入れて持参。エジプトのアクセサリーやファラオ等の置物、民族衣装やスカーフなども持ってきて、触らせてくれたり、着させてくれたり、香水を持ってきて香りを紹介してくれたり、音楽のテープを流したり、有名な歌を目の前で歌ってくれたりもしました。バスブーサの甘さ控えめな方はナディアの手作りですが、しっかり甘い

方はエジプト大使館が寄贈してくださったもので、「公式バスブーサ」などと呼んでおりました。エジプト大使館は、お菓子の他にもいくつかの特産品を貸し出してくれたそうです。

いろいろなことがぎゅっと詰まった2時間でした。ナディアが準備した原稿を渡邊由香（わたなべゆか）が要約しながら紹介いたします。

● エジプトの地理と20世紀初頭までの歴史

エジプトは、台形の形をしています。全体に平らで、ナイル川が国土を縦断し、北に地中海、西側に紅海があります。正式な国家名はエジプト・アラブ共和国。アフリカ大陸にあり、リビアとスーダン共和国と国境を接し、紅海をはさんでサウジアラビア、すぐ近くにヨルダンやイスラエル、そして地中海の向こう側にはトルコがあります。ナイル川沿いは肥沃な土地に恵まれていて農業が盛んです。

紀元前7千年にはナイル川沿いに人々が定住してナイル文明が興り、紀元前3千年には専制君主国家が登場します。ギザにあるクフ王のピラミッドは、紀元前2,500年頃に建てられました。旧約聖書によると、紀元前13世紀ごろ、新生児の殺害を命じたファラオ(王)の命令から逃れるために、当時赤ちゃんだったヘブライ人の予言者モーゼはナイル川に流されますが、ファラオの娘に拾われ、王族の元で育てられます。川で赤ちゃんを拾う、というのは日本の昔話にもありますね。

紀元前7世紀になると、エジプトはアッシリア人のものとなり、やがてペルシア人がそれを滅ぼします。紀元前4世紀にはアレクサンダー大王が遠征、紀元前31年、エジプト女王クレオパトラはローマ帝国の支配に屈します。

エジプトの歴史は民族戦争の歴史でもあります。7世紀になるとアラブ人、13～15世紀にかけてはトルコ系マムルーク、16世紀に入るとトルコ系のオットーマンがやってきて支配を続けます。

18世紀末、ナポレオンに率いられて入ってきたフランスは、自然科学系の学者を派遣して植物や動物を研究し、文化調査団を組織して遺跡を研究、ずっと謎だったエジプト古代文字のヒエログリフ解読に成功しました。19世紀末からはイギリスがやってきて、まもなく列強国の大資本でスエズ運河が建設されます。

第一次世界大戦後の1922年、エジプトは列強支配から独立し、立憲君主制を布い

た近代国家を目指しますが、相次ぐ中東戦争で不安定な政情が続きます。

● わたしの家族と近現代エジプト

わたしの父方の実家には、大叔父が日本人といっしょに写っている古い写真があり、わたしが日本に行くとき、写真の日本人が誰であるのか調べてほしい、と頼まれました。調べたところ、当時皇太子だった裕仁親王がスエズ運河を通過して欧州を訪問していたことが判りました。写真の人物はおそらくそのお方です。名誉なことです。わたしの父方は軍人の家系でしたので、きっと警備をしていたのでしょう。

わたしの父は外交官となり、家族は父の赴任に伴っていろいろな国に行きました。母はトルコ系で、そちらの親戚はトルコ語を話します。だからわたしは多言語で育ちました。1952年、ドイツに住んでいた頃、祖国でムハンマド・ナギーブ（後のエジプト初代大統領）によるクーデターが起こり、わたしたちは生まれたばかりの弟を抱えながら急いで帰国しました。

数年後、第二代大統領ナセルはスエズ運河を国有化し、汎アラブ主義政策を展開しました。母方の従兄弟は、この政権下で国軍の指揮官(commander of army)になりました。1970年、第三代大統領サダトが就任すると、社会主義的経済政策に転換し、イスラエルとの融和を図ります。エジプトには、15世紀に当時のスペインから迫害されて以来、多くのユダヤ人が移住してきました。わたしの親しい友人もユダヤ系です。ユダヤ系エジプト人は、経済・財政面で国家を支えています。サダトはイスラム過激派の反感を買い、1981年に暗殺されました。第四代大統領ムバーラクは、対米協調外交を進める一方、イスラム主義運動を厳しく弾圧して国内外の安定化を図り、開発独裁的な政権を20年以上にわたって維持しますが、近隣諸国の民主化運動がエジプトにも波及し、2011年に辞任。その後は政党が乱立し、現在に至るまで混乱が続いています。

● ターハー・フセイン

ターハー・フセインは20世紀初頭にエジプトの小さな村で生まれました。医師の不幸で3歳の時全盲となりましたが、コーランを学ぶ学校に行き、やがて上京してカイロ大学で学び、卒業後は国費留学生として渡仏。モンペリエ大学で修士、

ソルボンヌ大学でイブン・ハルドゥーンの研究で博士となりました。当時のエジプトでは、頭のいい子どもはコーランを学ぶ学校に送られ、その後は文系なら法学部へ進みフランス語で、理系なら医学に進み英語で学びました。

ターハーはフランスから帰国してからは、カイロ大学で教鞭をとったり、詩や小説などの執筆活動続ける傍ら、エジプトの教育界に大きな業績を残しました。万人が教育を受ける権利を強く主張し、コーランを学ぶ学校を小学校に作り替え、高等教育が受けられるよう大学もたくさん作りました。エジプトが今日、高い識字率を誇るのには、ターハーのおかげです。ターハー・フセインは、**Insight is not sight** と言ったそうです。直訳すると「洞察する力に視力は要らない」。志の強さに心を打たれます。今日、エジプトについてわたしが最も紹介したかったのは、ターハー・フセインです。すばらしい人です。

CWAJ メンバー ナディア・エルボライ・ヤマムラ

実はこの日、ナディアは20分くらい遅れて会場にやってきました。お菓子やお茶や物産品など荷物を抱えての移動は大変な上、この日はいくつかの鉄道会社で遅延が起こり、渋谷の駅前は大規模工事中で迷いやすい状況でしたが、ナディアは大らかで、始終落ち着いていました。彼女のプレゼンテーションの始め方も面白かったので、要約してご紹介します。また、エジプト人のメンタルについては、ガーダも面白い話をしてくれましたので、要約したものを続けて紹介します。

● みなさまお早うございます。

さっそくエジプトと日本の違いをお話ししましょう。

みなさんは、時間通りに電車がやってきて、計画的に日常を過ごすことに慣れていきますね。計画。これはエジプトでは難しいです。電車は時間通りに来ない。そもそも来ない。来ても混んでるし、行先が急に変更になったりします。エジプトでは計画してもうまくいかないことが多いです。さ、始めましょう。

ナディア・エルボライ・ヤマムラ

●「ピラミッドの国」エジプトは、たくさんの矛盾を抱えたカオスの国でもありません。この地に古代文明が興り、芸術が栄え、文化の中心地となり、現在は高い識字率を誇ります。でもその実態は複数の人種からなる多民族国家で、熱烈すぎるイスラム教徒を抱え、歴然とした階級格差が存在し、そのせいでいつも問題が起きています。直近5年間でも3回政権交代がありました。

カオスは克服できるのか？ 落ち着かない日々を人々はどう対処して生きるのか？

… 答えは、「マーレシュ」（しょうがない、というような意味）。エジプト人は理解や分析をあきらめ、目の前の出来事をありのまま受け入れ、事態の展開を見守る民族なのです。みなさんの目には、「努力を放棄している」と映るかもしれません。でも、生きていたら、自分の力だけではどうにもならないいろいろな出来事が起こりますよね。

混沌とした世界でどう平常心を保ち続けなければならないのか？ どう生き抜けばいいか？

…その答えを、わたしたちは経験をとおして身に着けたのです。エジプト国家とそこに生きるエジプト人は、そのような状況下における人間の生き方という観点での見本になる、と思います。

上智大学大学院 ガーダ・ザイド

最後に、VIフレンズさんからの感想を3つ紹介いたします。

●皆様のお陰で楽しいひとときを過ごすことができました。また、エジプトの民族衣装も羽織ることができ、とてもハッピーな気分になりました。ありがとうございました。

●エジプトのお話楽しかったです。ケーキは超甘かったです。アクセサリーも日本のとはずいぶん違いますね。英会話サークルに入っておりますので Topic の時間にこのことを発表してきます。ECGでもっと英会話をしたいです。

●ナディアの話術と情熱につり込まれ、あまりにおもしろくて、ボランティアガイドという立場を忘れて質問までしてしまいました。ありがとうございました。

CWAJ メンバー渡邊由香(わたなべゆか)

資料提供:CWAJ メンバー森藤純子(もりとうじゅんこ)、松原久美子(まつばらくみこ)

★4. エッセイ 福地健太郎 おかげさまで今ここに ～北海道からの近況報告～

2012年度のCWAJ-SVI給付生の福地健太郎（ふくちけんたろう）さんは、スーダンでの視覚障害者教育現場での実習を経てイギリスで教育分野における最前線の研究を積み、現在はJICA職員として忙しくも充実した日々を過ごされています。スーダンでは、オスマン・トルコ帝国時代に持ち込まれたトルコ風料理のダマー（鳥や羊のトマト煮込み）や、フル（ソラマメの煮込み）、ケフタ（ミートボール）、ターミーア（豆のコロッケ）などが美味しく、日本食が恋しくなることはなかったそうです。

● 皆様こんにちは。2012年から2013年までイギリスのサセックス大学に留学させていただいた福地健太郎と申します。今回、留学に至るまでとその後についてご報告する機会をいただきました。

私は全盲で、大阪生まれです。両親や先生方、行政の理解もあり、幼稚園からずっと普通の学校で学んできました。また高校時代、タイのスラムに生まれ、日本のNGOの支援で大学に通い、だれもが教育を受けられるようにと外交官を目指している方と出会い、教育の大切さと世界を変える力を知りました。

このような経験がきっかけで、障害を持っていてもいなくても、だれもが教育を受け、社会に参加できる世界の実現に貢献したい、と考えるようになりました。そこで教育、障害、国際協力が学べる筑波大学に進学しました。学生時代にはスーダンの障害者の教育を支援するNGOをスーダンの友人たちと立ち上げました。CWAJについては視覚障害の先輩方からずっと聞いており、いつか留学したいと考えていました。

2010年夏ごろ、いよいよ本格的に国際協力を学びたいと考え、CWAJ-SVIへの応募を決断しました。

● サセックス大学とスーダン滞在

留学先として、教育分野の国際協力に関する修士課程のあるサセックス大学を選びました。実は、サセックス大学でより現実に沿った学びをしたいと思い、留学前に1年間スーダンに滞在しました。CWAJの皆様には、1年間留学を待っていただき、改めて御礼申し上げます。おかげ様で、スーダンで普通学校やコーラン学校に通う視覚障

害者への点字の講習会プロジェクトを実施しつつ、盲学校で英語を教える経験をし、途上国の視覚障害者の教育の状況について、身を以て学んだ上で留学することができました。サセックス大学では、教育分野での国際協力の基本となる考え方、研究の進め方、最新の動向を学びました。また、世界中からの友人たち、熱心な先生方にも恵まれて、ほんとうに充実した1年間を過ごしました。

● JICA 北海道へ

卒業後は日本に戻り、政府の国際協力を実施する国際協力機構(JICA)の北海道センターに就職し、途上国の国づくりを行う行政官や研究者むけの研修を担当しています。この研修では日本の大学や企業、NGOと協力しつつ、日本と途上国の経験を交換し、学び合うことを目指しています。たとえば、理数科の教員研修を行う行政官向けの研修や地域で障害者を支援する行政官向けの研修、障害当事者のリーダー向けの研修を担当しています。サセックス大学で学んだ知識はまさに仕事に生きていますし、同様に学んだ物事の本質を分析する力が何より今の仕事をやりがいのあるものに行っていると感じます。

また、研修の一部として日本の大学で修士や博士を取る留学生のサポートも担当しており、自身が留学した経験により留学生が直面する問題に共感しつつ、共に考えます。地下水の汚染を除去する方法を研究し、ラオス国立大学初の女性ファカルティーになった留学生等、ほんとうに苦楽を間近で見ながら応援してきた担当としては、一人一人の卒業は何度経験しても嬉しいものです。私が留学で得られたようなすばらしい経験をアフリカ、アジア、太平洋諸島から日本にやって来る留学生にもしてもらい、日本と繋がりつつ世界中で活躍して欲しいと思います。

● これから

2013年11月、JICAで4年半の契約で働き始めましたが、今年2月に期限の定めのない職員として採用されることとなりました。

今後はより長期的に国際協力に携わることとなるので、教育、障害等これまで積み上げてきた分野に加え、保健、水、農業等、より広い視野からだれもが参加できる社会の実現に貢献することを目指していきたいと思っています。

最後になりましたが、今の私の土台となる留学を実現していただいた CWAJ の皆様に心より御礼申し上げます。

JICA 福地健太郎(ふくちけんたろう)

★5. 編集後記

日本人と結婚したナディアは日本でエジプトについて語れる数少ない人材です。日本で勉学を続けるガーダは、きっと将来グローバルな視点で世界に貢献するでしょう。福地健太郎さんはすでに最前線に立ち、世界と日本を結び付けてくれています。

CWAJ VVI ニュースレターは、CWAJ ホームページでもお読みいただけます。

<http://www.cwaj.org/Education/vvi-j.html>

皆さまのご感想を、ぜひ下記の連絡先までお寄せください。

連絡先が変わった方、また、点字や墨字で Newsletter を受け取っていらっしゃる方でメール受信に変えてもよろしい方も、下記までご一報ください。

(連絡先) VolunteersVI@cwaj.org

編集担当：渡邊由香 (わたなべゆか)

発送担当：本村理子 (もとむらみちこ)